**様式 C-19**

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成　22　年　6　月　16　日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：平 成　20 年 度　～　平 成　21 年 度
課題番号：20720101
研究課題名（和文）不完全文・非文発話生成の理論言語学的研究

研究課題名（英文）A theoretical study of nonsentential utterance production

研究代表者
井土　愼二（SHINJI IDO）
愛知県立芸術大学・音楽学部・准教授
研究者番号：80419233

研究成果の概要（和文）：不完全文生成モデルの構築

研究成果の概要（英文）：Modelling of nonsentential utterance production

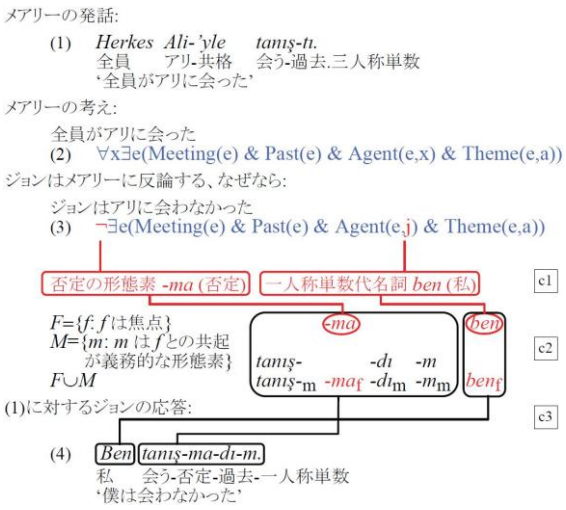
交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 平成 20 年度 | 1,300,000 | 390,000 | 1,690,000 |
| 平成 21 年度 | 1,100,000 | 330,000 | 1,430,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 2,4000,000 | 720,000 | 3,120,000 |

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：3001 言語学
キーワード：言語学、意味論、非文発話、Nonsentential utterances

１．研究開始当初の背景
過去の多くの研究では省略文とは「統語的に完全な文」から構成素が削除されたものとされてきた。しかし、このような構成素省略・削除の概念は必然的に全ての母語話者が省略文から同一の「完全文」を再構築するということを前提とする。この前提に妥当性が無いことが指摘されてきた一方で省略文や省略発話の生成についての「完全文」の存在を前提としない研究は少なかった。近年このような発話は nonsententials の名で研究対象となった。研究代表者は形態的に膠着的な言語における非文発話を分析しており、下に図示されているような情報構造を援用した非文発話生成モデルを構築していた。（表中の例文はトルコ語。）表中 c1、c2、c3 はそれぞ



れ（メアリーとジョンの）情報（の差）から形態素への写像、語形成、統語にあたる。

２．研究の目的
「統語的に不完全」とされる発話の汎言語的な生成モデルを構築し、その検証と修正をする。このような発話にはいわゆる「省略文」も含まれる。「省略文」は、その名が示すように統語的に完全な文の存在を仮定している。しかし、現実の言語使用では文の構成素の省略・削除では説明できない発話が多く存在する。本研究ではこのような発話の生成を「統語的に完全な文」の存在を仮定せずに説明する。このモデルは非文発話内に現れる構成素について一定の予測をすることができる。

３．研究の方法
本研究で提示する非文発話モデルを、インフォーマントの協力で多言語、ひいては人間の言語に一般化された形で発展させる。これに並行して形式化によりモデルの検証を容易にする。

４．研究成果
20 年度中に進んだ範囲での形式化は、A morpheme-based model of nonsentential utterance production（形態素に基づいた非文発話生成モデル）という論文として発表した。論文では一階述語論理と語彙概念構造（Lexical Conceptual Structure）という動詞意味論で作られた形式を命題（構造）の表示に使った。二種類の命題（構造）の表示形式を使っているので、21 年度はこれらの形式の統一と精密化とともに、単純化を行った。具体的には質問の意味を「返答の意味に適用すると命題を産出する関数」とする Krifka の分析に拠って、質問－応答に現れる不完全文の意味表示の枠組みの統一を行った。これは「不完全文の生成を統一的に説明する」という目的の達成に資するものとなった。

21 年度にはまた、不完全文生成モデルが「Wh 疑問文への回答」、「重複語句剥奪」、「拘束形態素のみから成る発話」の三種類の不完全文に加えて、「複数の焦点を持つ不完全文」の生成をも扱えることを明らかにした。これらの不完全文の生成において、また主語と動詞の一致を持つ言語における主語の義務的な出現においても、不完全文生成モデルの二つの原則である「意味のある発話においては次の形態素の出現のみが義務的である：ａ）焦点である形態素　ｂ）焦点が文法的に共起を要求する形態素」が貫徹することを明らかにした。この結果は、当初の目的であった「不完全文の生成を統一的に説明する」が一定程度の達成を見たことを示す。

21 年度の成果は投稿されており、現在査読中である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）
① Shinji Ido、A morpheme-based model of non-sentential utterance production、Oslo Studies in Language、査読有、Vol.1、No.1、2009、63-75

〔学会発表〕（計 1 件）
① 井土慎二、非文発話生成を説明する試み、東北大学大学院国際文化研究科附属言語脳認知総合科学研究センターコロキアム、平成 21 年 7 月 29 日

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
井土　慎二（SHINJI IDO）
愛知県立芸術大学・音楽学部・准教授
研究者番号：80419233
(2)研究分担者
（　　）
研究者番号：
(3)連携研究者
（　　）
研究者番号：